はき・あまし国家試験問題　リハビリテーション医学　43 問

脊髄損傷（ 21 問 ）	はき国家試験　リハビリテーション医学

はき 1-96　脊髄損傷患者の訓練で正しいのはどれか。
1. 起立時に血圧が上がりやすいので注意する。
2. 頸髄損傷ではベッドと車椅子との移乗動作は無理である。
3. 自動車の運転は勧められない。
4. 腰髄損傷では歩行訓練ができる。

はき 2-95　脊髄損傷について誤っている記述はどれか。
1. 褥瘡の予防が必要である。
2. プッシュアップ訓練が必要である。
3. 尿路管理が必要である。
4. 頸髄損傷では大振り歩行訓練が必要である。

はき 3-95　上位胸髄の脊髄損傷患者の訓練として適切でないのはどれか。
1. プッシュアップ
2. キャスター上げ
3. 移乗動作
4. 四点歩行

はき 4-94　第 6 頸髄節まで機能残存の脊髄損傷患者が可能な動作で誤っているのはどれか。
1. 肩の外転
2. 肘の屈曲
3. 手関節の背屈
4. 手指の屈曲

はき 6-94　脊髄損傷患者の排尿について誤っている記述はどれか。
1. 脊髄排尿中枢は仙髄にある。
2. 残尿は尿路感染の原因となる。
3. 持続カテーテル管理を第一目標とする。
4. 弛緩性膀胱では用手圧迫により行う。

はき 7-95　C6 損傷（第 7 頸髄節以下の損傷）の患者ができない動作はどれか。
1. 寝返り動作
2. 坐位保持
3. 移乗動作
4. 起立動作

はき 8-94　脊髄損傷の理学療法で誤っているのはどれか。

1. 1 日 2 回の体位変換を行う。
2. 呼吸訓練を行う。
3. 褥創予防にプッシュアップを行う。
4. 下位腰髄損傷では実用的な歩行を目指す。

はき 9-94　頚髄損傷患者の障害でないのはどれか。

1. 四肢麻痺
2. 失　禁
3. 嚥下障害
4. 肺活量低下

はき 11-95　頚髄損傷急性期にみられない症状はどれか。

1. 腸閉塞
2. 弛緩性運動麻痺
3. 反射性排尿
4. 発汗障害

はき 12-94　脊髄損傷による膀胱直腸障害でないのはどれか。

1. 無　尿
2. 失　禁
3. 尿　閉
4. 便　秘

はき 13-94　脊髄損傷完全麻痺について正しい組合せはどれか。

1. 第 3 頚髄レベル　―　人工呼吸器
2. 第 7 頚髄レベル　―　電動車いす
3. 第 3 胸髄レベル　―　長下肢装具
4. 第 12 胸髄レベル　―　短下肢装具

はき 14-92　頚髄損傷の症状で誤っているのはどれか。

1. 関節異所性骨化
2. 起立性低血圧
3. 観念運動失行
4. 体温調節障害

はき 17-90　胸髄レベルの脊髄損傷完全麻痺患者について正しい記述はどれか。

1. 横隔膜麻痺がある。
2. 排便障害がみられる。
3. 下肢の筋緊張が低下する。
4. 移動には電動車いすが必要である。

はき 20-91　第 6 頚髄レベルの脊髄損傷患者の合併症とその対応との組み合わせで正しいのはどれか。

1.　うつ熱　　－　解熱剤投与
2.　殿部褥瘡　　－　プッシュアップ
3.　尿路感染　　－　間欠導尿
4.　自律神経過反射　－　下肢挙上

はき21-90　脊髄損傷による完全対麻痺患者に対する社会復帰支援で正しいのはどれか。

1.　電動車いすでの屋外移動
2.　下肢装具での実用歩行
3.　自動車運転免許の取得
4.　入浴サービスの手配

はき 22-90　脊髄損傷患者に生じる自律神経過反射で正しいのはどれか。

1.　腰髄損傷患者に生じる。
2.　起立性低血圧を生じる。
3.　尿の膀胱内貯留が誘因となる。
4.　損傷部位以下の反射が消失する。

はき 23-84　第 6 頚髄節残存の頚髄損傷患者が行える ADL はどれか。

1.　プッシュアップを用いた座位移動
2.　両松葉杖使用での大振り歩行
3.　機能的把持装具を用いたつまみ動作
4.　スプリングバランサーを用いた食事動作

はき 24-84　第 7 頚髄節残存の脊髄損傷後に生じる合併症とその対応の組合せで最も適切なのはどれか。

1.　起立性低血圧 ―――― 座位保持
2.　殿部褥瘡 ―――――― プッシュアップ
3.　排尿障害 ―――――― 持続留置カテーテル
4.　自律神経過反射 ――― 下肢弾性ストッキング

はき 26-84　脊髄損傷において、肘の伸展によるプッシュアップが可能となる脊髄節残存高位はどれか。

1.　C4
2.　C5
3.　C6
4.　C7

はき 27-83　C7 完全麻痺の脊髄損傷者が目標とする ADL として正しいのはどれか。

1. 人工呼吸器からの離脱
2. BFO による食事動作の自立
3. 車椅子駆動の自立
4. 歩行の獲得

はき 28-84　脊髄損傷の損傷レベルと key muscle(主たる残存筋)の組み合わせで正しいのはどれか。

1.　C5 ――― 上腕三頭筋
2.　C8 ――― 深指屈筋
3.　L3 ――― 腸腰筋
4.　L4 ――― 下腿三頭筋

脊髄損傷（ 22 問 ）	あまし国家試験　リハビリテーション医学

あ 1-106　脊髄損傷について正しいのはどれか。

1.　機能障害のレベルは脊椎の損傷レベルと一致する。
2.　頸髄損傷で四肢麻痺が起こる。
3.　頸髄損傷で呼吸麻痺は起こらない。
4.　椎間板障害で脊髄損傷は起こらない。

あ 2-105　脊髄損傷で誤っている記述はどれか。

1.　原因としては外傷が最も多い。
2.　頸髄損傷では四肢麻痺となる。
3.　受傷初期では弛緩性麻痺が起こる。
4.　臥位では血圧が下がりやすい。

あ 3-105　脊髄損傷の合併症でないのはどれか。

1.　てんかん発作
2.　起立性低血圧
3.　尿路感染症
4.　褥　瘡

あ 4-103　脊髄損傷について正しい記述はどれか。

1.　原因として血管障害が多い。
2.　発症直後から腱反射が亢進する。
3.　頸髄損傷では対麻痺となる。
4.　膀胱直腸障害が起こる。

あ 5-104　C_6損傷（第 7 頸髄節以下の損傷）の患者ができない動作はどれか。

1.　自助具を用いた食事動作
2.　車椅子の駆動
3.　更衣動作
4.　杖による歩行

あ 6-103　脊髄損傷急性期の訓練で誤っているのはどれか。

1.　関節可動域訓練
2.　残存筋力維持訓練
3.　呼吸訓練
4.　寝返り動作訓練

あ 7-106　脊髄損傷のリハビリテーションについて誤っている組合せはどれか。

1.　斜面台 ―――――――――――― 起立性低血圧の予防
2.　弾性ストッキング ――――― 骨萎縮の予防
3.　プッシュアップ ―――――― 移乗動作の獲得
4.　マット訓練 ――――――――― 起居動作の獲得

あ 8-103　脊髄損傷について誤っている記述はどれか。

1.　頸髄損傷の好発部位は第 5-6 頸椎部である。
2.　受傷直後は痙性麻痺となる。
3.　排尿障害を伴う。
4.　自律神経障害を伴う。

あ 9-104　胸髄損傷による対麻痺患者ができない動作はどれか。

1.　入　浴
2.　杖なし歩行
3.　バスケットボール
4.　車の運転

あ 10-105　頚髄損傷のリハビリテーションで誤っている記述はどれか。

1.　C_4損傷では電動車椅子を用いる。
2.　C_4損傷ではプッシュアップが可能となる。
3.　C_6損傷では寝返りが可能となる。
4.　C_6損傷では坐位保持が可能となる。

あ 15-99　C6 完全損傷（第 6 頚髄節残存）について正しい記述はどれか。

1.　手関節背屈筋力は正常である。
2.　乳頭周囲の感覚は傷害されていない。
3.　セルフケアは全介助である。
4.　杖と下肢装具を用いて歩行できる。

あ 16-97　第 5 頚髄節レベル残存の脊髄損傷完全麻痺患者で可能なのはどれか。

1.　プッシュアップ動作
2.　機能的把持副子によるつまみ動作
3.　自助具による食事動作
4.　にぎり動作

あ 18-98　脊髄損傷でみられないのはどれか。

1.　自律神経過反射
2.　異所性骨化
3.　けいれん発作
4.　深部静脈血栓症

あ 20-99　脊髄損傷患者で杖と短下肢装具の使用により実用歩行が可能となる損傷レベルはどれか。

1.　第 6 胸髄
2.　第 1 腰髄
3.　第 3 腰髄
4.　第 1 仙髄

あ 21-99　第 6 頸髄節レベルの脊髄損傷患者に可能な ADL で正しいのはどれか。

1.　スプーンを握って食事する。
2.　機能的把持装具の使用で鉛筆を持つ。
3.　ベッドから車いすへ側方から乗り移る。
4.　車いすの小車輪を挙げて段差を越える。

あ 22-98　第 5 頸髄節残存の頸髄損傷患者に可能なのはどれか。

1.　肩関節外転
2.　手関節背屈
3.　肘関節伸展
4.　手指屈曲

あ 23-84　第 6 頸髄節残存の頸髄損傷患者の移動動作に対する訓練で正しいのはどれか。

1.　床面から車いすへの移動
2.　車いす転倒からの起き上がり訓練
3.　トランスファーボードを利用しての車いすへの移動
4.　車いすキャスター挙げを利用しての段差乗り越え

あ 24-85　脊髄損傷後に生じる合併症で最もよくみられるのはどれか。

1.　肝硬変
2.　膀胱結石
3.　慢性膵炎
4.　慢性閉塞性肺疾患

あ 25-85　脊髄損傷の合併症はどれか。

1.　異所性骨化
2.　心筋梗塞
3.　気　胸
4.　認知症

あ 26-82 第 6 頸髄節残存の頸髄損傷患者で可能な動作はどれか。

1. 車椅子への側方移乗
2. ノブ付き車椅子駆動
3. 両長下肢装具での歩行
4. 肘伸展によるプッシュアップ

あ 27-86　脊髄損傷の合併症でよくみられるのはどれか。

1.　肝硬変
2.　自然気胸
3.　心筋梗塞
4.　膀胱結石

あ 28-86　脊髄損傷完全麻痺の損傷レベルとリハビリテーションで到達する ADL との組合せで正しいのはどれか。

1.　第 3 頸髄――人工呼吸器の使用
2.　第 6 頸髄――BFO による食事動作
3.　第 8 胸髄――電動車椅子による移動
4.　第 4 腰髄――長下肢装具による歩行

解答

はき・あまし国家試験問題　リハビリテーション医学　43 問

脊髄損傷（ 21 問 ）	はき国家試験　リハビリテーション医学

はき 1-96　脊髄損傷患者の訓練で正しいのはどれか。

1. 起立時に血圧が上がりやすいので注意する。
2. 頸髄損傷ではベッドと車椅子との移乗動作は無理である。
3. 自動車の運転は勧められない。
4. 腰髄損傷では歩行訓練ができる。

はき 2-95　脊髄損傷について誤っている記述はどれか。

1. 褥瘡の予防が必要である。
2. プッシュアップ訓練が必要である。
3. 尿路管理が必要である。
4. 頸髄損傷では大振り歩行訓練が必要である。

はき 3-95　上位胸髄の脊髄損傷患者の訓練として適切でないのはどれか。

1. プッシュアップ
2. キャスター上げ
3. 移乗動作
4. 四点歩行

はき 4-94　第 6 頸髄節まで機能残存の脊髄損傷患者が可能な動作で誤っているのはどれか。

1. 肩の外転
2. 肘の屈曲
3. 手関節の背屈
4. 手指の屈曲

はき 6-94　脊髄損傷患者の排尿について誤っている記述はどれか。

1. 脊髄排尿中枢は仙髄にある。
2. 残尿は尿路感染の原因となる。
3. 持続カテーテル管理を第一目標とする。
4. 弛緩性膀胱では用手圧迫により行う。

はき 7-95　C6 損傷（第 7 頸髄節以下の損傷）の患者ができない動作はどれか。

1. 寝返り動作
2. 坐位保持
3. 移乗動作
4. 起立動作

はき 8-94　脊髄損傷の理学療法で誤っているのはどれか。

1.　1 日 2 回の体位変換を行う。
2.　呼吸訓練を行う。
3.　褥創予防にプッシュアップを行う。
4.　下位腰髄損傷では実用的な歩行を目指す。

はき 9-94　頚髄損傷患者の障害でないのはどれか。

1.　四肢麻痺
2.　失　禁
3.　嚥下障害
4.　肺活量低下

はき 11-95　頚髄損傷急性期にみられない症状はどれか。

1.　腸閉塞
2.　弛緩性運動麻痺
3.　反射性排尿
4.　発汗障害

はき 12-94　脊髄損傷による膀胱直腸障害でないのはどれか。

1.　無　尿
2.　失　禁
3.　尿　閉
4.　便　秘

はき 13-94　脊髄損傷完全麻痺について正しい組合せはどれか。

1.　第 3 頚髄レベル　―　人工呼吸器
2.　第 7 頚髄レベル　―　電動車いす
3.　第 3 胸髄レベル　―　長下肢装具
4.　第 12 胸髄レベル　―　短下肢装具

はき 14-92　頚髄損傷の症状で誤っているのはどれか。

1.　関節異所性骨化
2.　起立性低血圧
3.　観念運動失行
4.　体温調節障害

はき 17-90　胸髄レベルの脊髄損傷完全麻痺患者について正しい記述はどれか。

1.　横隔膜麻痺がある。
2.　排便障害がみられる。
3.　下肢の筋緊張が低下する。
4.　移動には電動車いすが必要である。

はき 20-91　第 6 頚髄レベルの脊髄損傷患者の合併症とその対応との組み合わせで正しいのはどれか。

1. うつ熱　－　解熱剤投与
2. 殿部褥瘡　－　プッシュアップ
3. 尿路感染　－　間欠導尿
4. 自律神経過反射　－　下肢挙上

はき21-90　脊髄損傷による完全対麻痺患者に対する社会復帰支援で正しいのはどれか。

1. 電動車いすでの屋外移動
2. 下肢装具での実用歩行
3. 自動車運転免許の取得
4. 入浴サービスの手配

はき 22-90　脊髄損傷患者に生じる自律神経過反射で正しいのはどれか。

1. 腰髄損傷患者に生じる。
2. 起立性低血圧を生じる。
3. 尿の膀胱内貯留が誘因となる。
4. 損傷部位以下の反射が消失する。

はき 23-84　第 6 頚髄節残存の頚髄損傷患者が行える ADL はどれか。

1. プッシュアップを用いた座位移動
2. 両松葉杖使用での大振り歩行
3. 機能的把持装具を用いたつまみ動作
4. スプリングバランサーを用いた食事動作

はき 24-84　第 7 頚髄節残存の脊髄損傷後に生じる合併症とその対応の組合せで最も適切なのはどれか。

1. 起立性低血圧 ―――― 座位保持
2. 殿部褥瘡 ―――――― プッシュアップ
3. 排尿障害 ―――――― 持続留置カテーテル
4. 自律神経過反射 ――― 下肢弾性ストッキング

はき 26-84　脊髄損傷において、肘の伸展によるプッシュアップが可能となる脊髄節残存高位はどれか。

1. C4
2. C5
3. C6
4. C7

はき 27-83　C7 完全麻痺の脊髄損傷者が目標とする ADL として正しいのはどれか。

1. 人工呼吸器からの離脱
2. BFO による食事動作の自立
3. 車椅子駆動の自立
4. 歩行の獲得

はき 28-84　脊髄損傷の損傷レベルと key muscle(主たる残存筋)の組み合わせで正しいのはどれか。

1.　C5 ――― 上腕三頭筋
2.　C8 ――― 深指屈筋
3.　L3 ――― 腸腰筋
4.　L4 ――― 下腿三頭筋

脊髄損傷（ 22 問 ）	あまし国家試験　リハビリテーション医学

あ 1-106　脊髄損傷について正しいのはどれか。

1.　機能障害のレベルは脊椎の損傷レベルと一致する。
2.　頸髄損傷で四肢麻痺が起こる。
3.　頸髄損傷で呼吸麻痺は起こらない。
4.　椎間板障害で脊髄損傷は起こらない。

あ 2-105　脊髄損傷で誤っている記述はどれか。

1.　原因としては外傷が最も多い。
2.　頸髄損傷では四肢麻痺となる。
3.　受傷初期では弛緩性麻痺が起こる。
4.　臥位では血圧が下がりやすい。

あ 3-105　脊髄損傷の合併症でないのはどれか。

1.　てんかん発作
2.　起立性低血圧
3.　尿路感染症
4.　褥　瘡

あ 4-103　脊髄損傷について正しい記述はどれか。

1.　原因として血管障害が多い。
2.　発症直後から腱反射が亢進する。
3.　頸髄損傷では対麻痺となる。
4.　膀胱直腸障害が起こる。

あ 5-104　C_6損傷（第 7 頸髄節以下の損傷）の患者ができない動作はどれか。

1.　自助具を用いた食事動作
2.　車椅子の駆動
3.　更衣動作
4.　杖による歩行

あ 6-103　脊髄損傷急性期の訓練で誤っているのはどれか。

1.　関節可動域訓練
2.　残存筋力維持訓練
3.　呼吸訓練
4.　寝返り動作訓練

あ 7-106　脊髄損傷のリハビリテーションについて誤っている組合せはどれか。

1. 斜面台 ―――――――――― 起立性低血圧の予防
2. 弾性ストッキング ――――― 骨萎縮の予防
3. プッシュアップ ―――――― 移乗動作の獲得
4. マット訓練 ――――――― 起居動作の獲得

あ 8-103　脊髄損傷について誤っている記述はどれか。

1. 頸髄損傷の好発部位は第 5-6 頸椎部である。
2. 受傷直後は痙性麻痺となる。
3. 排尿障害を伴う。
4. 自律神経障害を伴う。

あ 9-104　胸髄損傷による対麻痺患者ができない動作はどれか。

1. 入　浴
2. 杖なし歩行
3. バスケットボール
4. 車の運転

あ 10-105　頚髄損傷のリハビリテーションで誤っている記述はどれか。

1. C_4損傷では電動車椅子を用いる。
2. C_4損傷ではプッシュアップが可能となる。
3. C_6損傷では寝返りが可能となる。
4. C_6損傷では坐位保持が可能となる。

あ 15-99　C6 完全損傷（第 6 頚髄節残存）について正しい記述はどれか。

1. 手関節背屈筋力は正常である。
2. 乳頭周囲の感覚は傷害されていない。
3. セルフケアは全介助である。
4. 杖と下肢装具を用いて歩行できる。

あ 16-97　第 5 頚髄節レベル残存の脊髄損傷完全麻痺患者で可能なのはどれか。

1. プッシュアップ動作
2. 機能的把持副子によるつまみ動作
3. 自助具による食事動作
4. にぎり動作

あ 18-98　脊髄損傷でみられないのはどれか。

1. 自律神経過反射
2. 異所性骨化
3. けいれん発作
4. 深部静脈血栓症

あ 20-99　脊髄損傷患者で杖と短下肢装具の使用により実用歩行が可能となる損傷レベルはどれか。

1. 第 6 胸髄
2. 第 1 腰髄
3. 第 3 腰髄
4. 第 1 仙髄

あ 21-99　第 6 頸髄節レベルの脊髄損傷患者に可能な ADL で正しいのはどれか。

1. スプーンを握って食事する。
2. 機能的把持装具の使用で鉛筆を持つ。
3. ベッドから車いすへ側方から乗り移る。
4. 車いすの小車輪を挙げて段差を越える。

あ 22-98　第 5 頸髄節残存の頸髄損傷患者に可能なのはどれか。

1. 肩関節外転
2. 手関節背屈
3. 肘関節伸展
4. 手指屈曲

あ 23-84　第 6 頸髄節残存の頸髄損傷患者の移動動作に対する訓練で正しいのはどれか。

1. 床面から車いすへの移動
2. 車いす転倒からの起き上がり訓練
3. トランスファーボードを利用しての車いすへの移動
4. 車いすキャスター挙げを利用しての段差乗り越え

あ 24-85　脊髄損傷後に生じる合併症で最もよくみられるのはどれか。

1. 肝硬変
2. 膀胱結石
3. 慢性膵炎
4. 慢性閉塞性肺疾患

あ 25-85　脊髄損傷の合併症はどれか。

1. 異所性骨化
2. 心筋梗塞
3. 気　胸
4. 認知症

あ 26-82 第 6 頸髄節残存の頸髄損傷患者で可能な動作はどれか。

1. 車椅子への側方移乗
2. ノブ付き車椅子駆動
3. 両長下肢装具での歩行
4. 肘伸展によるプッシュアップ

あ 27-86　脊髄損傷の合併症でよくみられるのはどれか。

1.　肝硬変
2.　自然気胸
3.　心筋梗塞
4.　膀胱結石

あ 28-86　脊髄損傷完全麻痺の損傷レベルとリハビリテーションで到達する ADL との組合せで正しいのはどれか。

1.　第 3 頸髄――人工呼吸器の使用
2.　第 6 頸髄――BFO による食事動作
3.　第 8 胸髄――電動車椅子による移動
4.　第 4 腰髄――長下肢装具による歩行